



YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY

「人類に奉仕するロータリー」 Rotary Serving Humanity

2016-17年度 RI会長／ジョン・ジャーム RI.D2590ガバナー／高良 明 横浜旭RC会長／青木 邦弘

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-2後藤ビル2F/〒241-0821

TEL.045-365-3273/FAX.045-365-3132

E-mail:asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 横浜市旭区二俣川1-45-30工藤ビル
(株岡田屋3階会議室)

例会日 毎週水曜日/12時30分～1時30分



旭区民まつりにて宮城復興米販売



第5回チャリティーコンサート



被災地の子ども達にクリスマスプレゼント

2017年2月15日 第2278回例会 VOL. 48 No. 29

■司 会 SAA 安藤 公一

■開会点鐘 会 長 青木 邦弘

■斉 唱 手に手つないで

■出席報告

会員数	31名	本日の出席数	21名
本日の出席率	91.30%	修正出席率	100%

■本日の欠席者

後藤、二宮 (麻)

■ビジター

渋谷一郎様 (横浜西 RC)

■ゲスト

荒川龍一郎様

(認定特定非営利活動法人

日本地雷処理を支援する会 (JMAS) 理事長)

■会長報告

青少年交換学生につきまして、愛知県高浜ロータリークラブの紹介がありました。同地区は三州瓦の産地でしたが、阪神淡路大震災後は大変な地域です。帆船日本丸の寄港地でもあります。寄港地になった理由は、港の近くにはお店は一軒もなく、学生が問題を起こすことがないことから選ばれたようです。

同クラブは設立47年で、旭ロータリークラブと同じごろ設立されています。今迄に受入れ45人、派遣44名、毎年受入れをしているクラブです。来日学生もいい子だけではあり

ません。青少年交換事業は、辛さと、その何十倍もの感激で組み立てられています。食わず嫌いという言葉があります。青少年交換事業も「やらず嫌い」の方が多と思います。日本の優しさを世界に広げ、考える力を、育てる力を持つようでは!!

高浜ロータリークラブは、青少年交換プログラムをクラブ第一優先プロジェクトに位置付けていきます。とありました。

後藤さんが交換留学生の受入れに積極的に参加されています。

○地区関係

第1回日本RYLAセミナー開催のお知らせ

日時 3月24日～26日

場所 愛知県豊田市トヨタ自動車本社研修所

参加者募集の案内が届いています。

○クラブ関係

例会卓話のお知らせ

3月22日の例会に横浜市立大学院循環制御医学教室主任教授の石川先生が卓話に来られます。大川さんと同期で、財団奨学生でもあります。

■雑誌委員会

新川 尚

ロータリー友誌紹介

○横組

P. 7～「合併……その後」

クラブの合併の主な理由は会員の減少とそ

れに伴うクラブの維持費の負担増です。合併に向けての協議は困難を極めるし、合併後の本当の利点は中々見えてこない。歴史のあるクラブ同士の合併は非常に難しい。我がクラブも数年前に合併話があり、その後中々会員が増えない現状を考えるととても他人事には思えません。

P. 11 ～「ロータリー財団 100 周年を祝う」

他の地区、クラブの R 財団 100 周年にちなんだ活動が紹介されています。2590 地区では、記念マラソン大会が開催されました。

P. 16 ～「End Polio Now」

ポリオ撲滅にむけた様々な活動が紹介されています。栃木西 RC では募金した方にメダカを配布したようです。

P. 30 「自転車 100 台の友好支援の橋渡し」

当クラブの活動が紹介されています。五十嵐会員をはじめ、関係者の皆様、ご苦労様でした。

■情報集会報告

○新川グループ 新川 尚

日時 2月14日 18:30～

場所 謝朋殿

参加者:兵藤、青木、今野、市川、新川(敬称略)

1) 50周年を迎えるにあたり、何をするか

- ・奨学金として使えないか
- ・救急車を寄贈
- ・今迄の周年記念の点検整備
- ・猫塚まつりを開催する
- ・消防署へホース自動巻取り機を寄贈
- ・チャリコンへ有名アーティストを呼び、拡大版として開催する

まとめ

いずれにしても意義ある業績賞を取れるような事業が良い

2) 増強

- ・何人かアプローチ出来る人がいるので、アタックしてみる
- ・元鶴峰 RC 会員、プロバスクラブの会員に声を掛けてみてはどうか

○記念式典

ホテルでの式典 150 人(100+50) 規模

2) 会員増強

・候補者の洗い出しと働きかけ

・女性会員

困難な条件

(男性社会の中で多勢に無勢の苦しさなど)

複数の会員が必要

(一定の割合が必要ではないか)

・入会条件の検討

成功例は必ずしも会費などの見直しによるものではない。新しいクラブであれば長期的な効果はわからない。

■ニコニコ BOX(会員敬称略)

渋谷一郎殿(横浜西 RC) / 横浜西 RC の渋谷と申します。先日はがんセミナー大変ありがとうございました。二宮さん、ありがとうございます。生徒にとってよい勉強の場になりました。

青木 邦弘 / 佐藤さん、今日は楽しみです。麻雀これ以上、上達しないでください。荒川龍一郎様、今日はよろしくお祈いします。

北澤 正浩 / 荒川龍一郎様、ようこそいらっしゃいました。卓話宜しくお祈い致します。

滝澤 亮 / ①齊藤様、荒川様、本日の卓話よろしくお祈いいたします。②先週の日曜日に娘が新居に引っ越しましたので、いよいよ一人になってしまいました。

齊藤 善孝 / 荒川様、本日はお忙しい中、卓話をお引受けいただき有り難うございます。本日の卓話よろしくお祈いします。

安藤 公一 / 荒川様、卓話宜しくお祈いします。

市川 慎二 / 荒川龍一郎さま、本日は卓話ありがとうございます。

吉原 則光 / 荒川様、ご多用のところ卓話いただき有り難うございます。よろしくお祈い致します。

大川 伸一 / ①年々少なくなっている義理チョコにもめげずに、頑張っていこうと思っております。②荒川様、ようこそ。卓話よろしくお祈いいたします。

太田 勝典 / 荒川様、本日の卓話楽しみにしております。

お祈いいたします。

■「日本地雷処理を支援する会」について

JMAS 理事長 荒川龍一郎様



認定特定非営利活動法人「日本地雷処理を支援する会（JMAS）」について

1) はじめに

JMAS の事業内容、活動に至るいきさつ、国際貢献への抱負、不発弾等の分布と処理の実態、不発弾処理の実施例等を紹介させていただきます。

2) JMAS の事業内容

JMAS は 2002 年に認定特定非営利活動法人として設立されました。

当初はカンボジアにおける不発弾処理 1 個事業から始まりましたが、逐次活動の有用性を外務省から認められ、NGO 無償援助資金支援事業が拡大するとともに、民間からの寄付金も拡大し、2016 年 5 月現在、カンボジアにおいて 4 個事業、ラオスにおいて 2 個事業、アンゴラにおいて 1 個事業、パラオにおいて 1 個事業、計 8 個事業を実施中であるとともに、これまでにアフガニスタン、パキスタンでも活動いたしました。

また今後も東南アジア地区、太平洋州地区での活動の拡大が予定されております。

JMAS の事業内容の特色は、不発弾処理等の専門家であった自衛官 OB により現地の人々と共同して処理活動を行うことにあります。

この特色により自衛隊が戦後 70 年間に亘り培ったノウハウを現地の不発弾等処理機関の人々に直接伝えることが出来ます。

また大手建機メーカーである小松製作所と組み、地雷、不発弾等を機械処理する為の機材を開発し、実際に現地で使用していることも事業内容の特色と言えます。

3) JMAS 活動に至るいきさつ

1946 年に大東亜戦争の終戦を迎え、直ちに問題となったのは、米軍による爆撃等による、



荒廃した国土の復興を妨げる不発弾の存在でした。

我が国は 1954 年自衛隊の創設後、陸上自衛隊においては不発弾処理隊、海上自衛隊においては水中処分隊を創設し、不発弾等の処理に従事してきました。終戦後 70 年を経過した現在でも、全国で 1 日に 1 個以上の不発陣の処理を実施しています。

このような中、カンボジアにおける PKO 活動に従事した隊員から、カンボジアに残されたままの膨大な数の地雷・不発弾の災禍に苦しむ人々の窮状を聞いた不発弾処理隊出身の自衛隊 OB の発意で設立されたのが JMAS です。

設立に至るいきさつの特色は、現場で活動してきた隊員の発意による設立であり、良くありがちな防衛省等の主導で作られた組織で



カンボジア：不発弾破壊準備／技術移転教育

ラオス：爆弾のこぎりカット法教育／訓練施設建て替え

パラオ：沈没船内に残る爆雷／爆雷の安全化準備

ラオス：クラスター弾除去機



現在の活動国

世界中の紛争跡地には今なお膨大な数の地雷・不発弾が残されたままであり、多くの人々が危険な環境下で生活し、土地の利用ができないため貧困から脱却できない状況におかれています。

カンボジアをはじめ地雷・不発弾汚染国は、処理組織を設立して除去活動を行っています。終了するまでにはこの先何十年もかかると思われており、広く国際社会に支援を求めています。



カンボジア：地雷除去作業／対人地雷除去機

アンゴラ：対人地雷除去機／機械整備技術移転教育



アンゴラ：道路補修／給水支援



カンボジア：小学校建築

地雷処理

地域復興支援

はありません。そこに極めて高い独自性とボランティア精神があると考えております。

4) 国際貢献への抱負

我々の能力の範囲で、現地の人々が望んでいるのであれば、今後も活動を継続していきたいと考えております。

5) 不発弾等の分布と処理の実態

残念ながら軍用の砲弾等はコスト面の問題等からその使用時に100%の爆発をさせることは不可能であり、日本のように技術力が高い国でも発射弾数の数%は不発になるのが実態です。一般に発射弾数の2割乃至3割が不発になると考えられています。

さらに第2次大戦後、大国の代理戦争である内戦等が頻発し、特に内戦等では国際法に則らぬ、滅茶苦茶な散布地雷原の構成等が現在でも為されており、汚染地域は拡大し続けているのが実態です。

特に内戦当事国の人々は、大国等から与えられた武器等を基礎知識無く使用しており、弾薬等の構造機能も知らず、従ってほとんど処理することが出来ないのが実態です。

しかしながら先進各国を中心に数多くの不発弾処理等のNGOがそれぞれの国の援助、寄付等で汚染地域で活動しているとともに、停戦が完全に成された国では、専門の不発弾処理組織を創設し、処理に邁進しております。

不発弾等の処理が、当核国家の復興に無くてはならぬものであることを周知徹底することが汚染地域の減少、曳いては内戦の撲滅と繋がることを期待するところです。

6) 不発弾等の処理の実施例

地雷処理機による機械処理、地雷の爆破処理、大型不発弾の信管除去による処理、大型不発弾の爆弾カット方による処理等を紹介いたします。

7) まとめ

JMASの活動の一端を紹介させていただきました。不発弾等汚染地域の減少に真摯に携わるJMAS専門家の活動にご理解をいただければ幸いです。

■次週の卓話

3/1 災害復興支援フォーラム

増田嘉一郎会員

週報担当 吉原 則光